

Title	国際競争力の確立過程に関する研究 - 電子計算機業界におけるIBM社の事例研究 -
Sub Title	
Author	斉藤茂樹(Saitou, Shigeki) 小林規威
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1979
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001979-0027

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 齊藤茂樹 主査 小林規威 教授
(富士通株式会社) 副査 小野桂之介 助教授
所属ゼミナール 小野桂之介 研 和田充夫 助教授

国際競争力の確立過程に関する研究 — 電子計算機業界におけるIBM社の事例研究 —

今日、世界のいくつかの産業では、グローバルな生産販売活動を展開し、同業他社に対して圧倒的な競争力を確立している企業が存在する。これらの企業も、その設立当初からそうした市場地位を備えていたわけではなく、彼らがどのような経営政策により、どのようなメカニズムを通じて今日の強大な市場地位を築くに至ったという点は、経営管理上興味深い問題である。

本論文では、こうした企業の一つであるIBM社を取り上げ、上記の点に関する解明への一助となる資料を提供すべく事例研究を行なった。採用した研究のアプローチは大略次の如くである。まず、同社がその設立以来とってきた主な経営政策の歴史的推移を、同社のアニュアル・レポート、裁判記録等を初めとする各種の文献資料から抽出確認し、それらの各政策がもたらした直接的効果を検討した。次いで、上で明らかにした直接的効果が、同社の企業成長過程、特に競争企業に対する優位性の確立にどのようなメカニズムを通じて貢献したのかという点について分析を行なった。その結果、IBM社が、その製品開発戦略、及びレンタル制度を軸としたマーケティング戦略を2本の柱とし、各種の生産政策をそれらの補助戦略として用いながら、まず米国内における圧倒的競争力を実現し、次いで同様の戦略体系を海外にも展開することによって今日の市場地位を確立してきた過程が明らかになったと考える。